

令和2年度 3期始業式式辞

校長 澤山 陽一

いよいよ2021年の幕開けです。2021年が、本校にとって、また生徒のみなさん一人一人にとって飛躍の年になりますよう、心よりお祈りいたします。

新しい年を迎えると、どんな人でも、「今年はどんな年になるのだろうかだろう。」とか、「こんな年にしたい。」などこれから始まる一年のことを考えるものです。

子どものころ私の家では、お正月に神社からいただいた「九星本暦」という暦を家族で一緒に見るという習慣がありました。暦を見ながら、家族で、「陽一は今年受験だけど、運勢がいいから大丈夫だよ」とか「お父さんは運勢が良くないから注意して過ごさないかね」などと互いに言い合うのです。思えば、私の占い好きはこういった環境から生まれたものなのかもしれません。

ところでみなさん、「突然ですが占ってもいいですか？」というテレビ番組を見たことがありますか。何人かの占い師が、偶然出会った一般人の方をいきなり占うという番組ですよね。そしてあの番組で人気急上昇中の占い師といえばもちろん、星ひとみさんでしょう。

彼女は、巫女の家系に生まれた人で目力もすごく、ただものではない雰囲気漂わせています。彼女が独自に生み出した「天星術」の占いの本が出版されると聞き、私は昨年のクリスマスイブに初版本を手に入れました。天星術では、生年月日に基づき人を3つのグループ、即ち月グループ、地球グループ、太陽グループに分け、それぞれをさらに4つに分類しているので全部で12の天星に分かれます。因みに私は、地球グループの「空」という天星で、「面倒見が良く、寛

大な心を持っている。人一倍負けず嫌い。実は、自分に自信がない臆病な一面がある。」などと書かれていました。私はこの占いを読んで実に納得するところもあったのですが、一方で自分にはそういう面はないと思うような内容もありました。

そこで思い出したのが、いわゆる「ジョハリの窓」です。心理学では有名な分類で聞いたことがある人も多いと思いますが、自分の性格を分析する際に、他人から見た自分という視点を加えて自分の性格は4つに分類できるといわれています。具体的には、「自分も他人も知っている自分」、「自分は知らないが他人は知っている自分」、「他人は知らないが自分は知っている自分」、「自分も他人も知らない自分」です。私は、占いに書いてあった自分の性格の中で私が思い当たるところがないと思った内容は、もしかしたら「ジョハリの窓」でいう「自分は知らないが他人は知っている自分」または「自分も他人も知らない自分」なのかもしれないと思いました。

今後、皆さんが社会に出て、勉強や仕事をしていく際に良好な人間関係を築くことは最も大切なことだといえます。そのためには、まず、自分自身の性格の良いところ悪いところをしっかりと把握しておく必要があるのではないのでしょうか。占いがすべてとは言いませんが、ヒント、あるいは占いを参考にして年の初めに自分についてもう一度見つめ直してみるのもいいかもしれません。

では、これから始まる、まとめの学期である3学期も、私がいつも言うように、自分の命は自分で守ること、常に「笑顔と感謝」の気持ちを持つこと、人の話にしっかりと耳を傾け生活することを、よろしく願います。